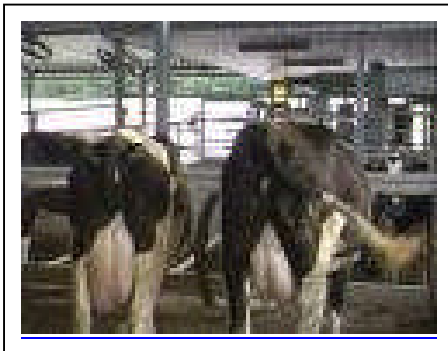


綺麗な内に掃除をするから、何時も綺麗。汚れたら掃除では遅い

酪農には掃除の場面が多い。牛舎の掃除、パーラーの掃除、ベッドの掃除、哺乳牛舎の掃除など毎日色々な場所の掃除がある。掃除の頻度は毎日でなくとも2日に1回の頻度であっても良い場所もある。しかし、汚れたと判断してから掃除をするのでは、必ず汚れるのである。汚れの判断の基準も汚れに慣れれば慣れるほど、人は平気になる。ゴミ屋敷といわれる場所がまさにそれである。掃除ができない女性・男性も増えているようである。

掃除は綺麗な内に掃除をするから綺麗な状態を維持できるのである。汚れたらでは、必ず汚れるのである。掃除は定期的に、朝夕する場所、毎日する場所、2日毎にする場所などを決めて、定期的に行わなければならない。多分に”汚れ具合”を感覚に頼る部分であるが、実際は細菌数などの掃除頻度の根拠が示されると良いのである。最近牛舎環境の細菌検査を始めたら、見た目の汚れと細菌数は一致しない事が判りかけてきている。掃除の仕方・頻度に関する根拠が必要である。

フリーストールベッドの前側のオガクズは、見た目には綺麗であっても、細菌学的には乳房炎の危険性が高くなるほどの細菌数がある。新しいオガクズであっても、細菌数1億以上のクレブシラ菌が検出される事は、珍しい事ではない。綺麗きたないは、視覚ではなく、科学的根拠が必要である。それを持って掃除の頻度を決めねばならない。



断尾の有無による違いである。どちらが綺麗であろうか？尾があってもなくとも綺麗でなくてはいけないのであるが。



通路の敷き料

敷き料の量が多くて、牛の蹄にとっても良いはずである。しかし、見た目ではなく、細菌数が多くて乳房炎が多発した。